

海域の概要

本湾は、三方を山に囲まれ、北部を日本海に開いた湾です。湾奥には敦賀港があります。日本三大松原の一つである、気比の松原が存在し、夏場は海水浴場となっています。



Specification

諸元

湾口幅：7.3 km

面積：57.8 km²

湾内最大水深：51 m

湾口最大水深：51 m

閉鎖度指標：1.04

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

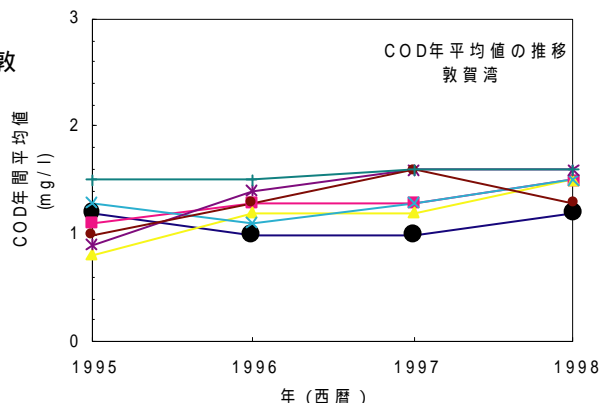
福井県南条郡河野村大谷字亀岩南西端と敦賀市立石岬を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

敦賀湾は、日本海に面し沖合には対馬暖流が流れ、日本海型気候に属しています。湾内には、敦賀市を経て黒河川が流入し、敦賀港とともに水質環境に影響を及ぼしていますが、水質は比較的良好で、COD年平均値の推移をみると、ほぼ全域で1mg/l前後で推移しています。

底質は、海岸線付近は岩ですが湾内の大部分は砂泥質となっています。



自然

敦賀湾は典型的なリアス海岸である若狭湾の東端に位置し、数多くの景勝地に恵まれ、若狭湾国定公園と越前加賀海岸国定公園に指定されています。

海岸線付近の海底勾配は急で、岸から離れるとすぐに20~30mの深さとなるため、広い藻場は見られませんが、岸に沿うようにガラモ場が分布しています。

水の澄んだ敦賀湾を抱きかかえるように約17,000本の松が群生する

「気比の松原」は、三保の松原（静岡県）や虹の松原（佐賀県）とともに日本三大松原の一つに数えられる国の名勝です。平均樹齢は約200年、アカマツにクロマツが混じり、さらに少数のフランス海岸松が点在しています。広大な樹林の海側は、延長約15kmの松原海水浴場となっております。



気比の松原

文化歴史

敦賀の地名の由来は、紀元前、崇神天皇の時代に、朝鮮任那国の王都怒我阿斯等（つぬがあらしと）がこの地に上陸して国司となり「角鹿（つぬが）と呼んだのがその初めと伝えられ、713年に「敦賀」と改められたものです。

敦賀は、天然の良港を擁し、古代から中世にかけ、朝鮮半島や中国大陸との交流が盛んで陸路においても、古代三関の一つ愛発関（あらかのせき）が配置されるなど、都と北国を結ぶ交通の要衝で、多くの物資の集散地となっていました。

産業

敦賀市の産業のうち、伝統産業の昆布加工（おぼろ昆布）が有名で全国の80%以上のシェアを占めています。

敦賀湾奥部に位置する敦賀港は日本海有数の天然の良港であり、日本海側の玄関口として、ロシア、韓国、中国、オーストラリアなどとの貿易が盛んに行われています。平成1年の取扱貨物量は約1,157万トンで、このうち外貿貨物が約216万トンとなっており、石炭、セメント、コンテナ貨物等が扱われています。



敦賀港